

家 庭

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 「高等学校教育課程編成・実施の手引」と「教育課程改善協議会」の経過

普通教科「家庭」においては、学習指導要領の趣旨の徹底や内容の理解を図るため、これまで、「高等学校教育課程編成・実施の手引」(以下「手引」)に学習指導に関する資料を掲載するとともに、「教育課程改善協議会」では各学校の実践に基づいた研究協議を行い、教育課程の編成・実施の充実が図られるよう取り組んできた。平成15年度からの手引の概要と教育課程改善協議会の説明・協議は次のとおりである。

年 度	手 引 の 概 要	教育課程改善協議会の説明・協議
平成15年度	1 教育課程研究協議会の経過 (平成11年度～平成14年度) 2 学習指導の改善・充実	・平成11年度からの手引及び教育課程研究協議会の経過についての説明 ・個に応じた指導の工夫と指導と評価の工夫・改善についての実践例をもとにした研究協議 ・「家庭総合」のシラバスの提示と説明
平成16年度	1 学習指導と評価の工夫・改善 2 評価方法の改善・充実 (1) 評価計画の作成 (2) 観点別評価の進め方 (3) 観点別評価の総括	・学習指導と評価の工夫・改善についての実践例をもとにした研究協議 ・評価計画の作成上の留意点や観点別評価による評価方法についての説明 ・観点別評価の総括についての考え方や評価方法の具体例についての説明・質疑応答 ・評価計画表作成から学年末評定までの評価の進め方についての説明
平成17年度	1 学習指導と評価の改善・充実 2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実 ～指導と評価の一体化を進める取組～ (1) 評価における課題と改善の方向性 (2) 評価方法の改善・充実 3 観点別学習状況の評価の進め方と指導の工夫	・学習指導と評価の改善・充実に向けた取組の実践例をもとにした研究協議 ・指導と評価の一体化を進める取組についての説明 ・評価方法の改善・充実に目指す評価計画の在り方についての説明 ・単元テストによる評価方法や個人内評価の工夫及び調理実習における自己評価票等の活用についての説明

(2) 普通教科「家庭」の学習指導の課題とその解決へ向けた取組

各学校において、「生きる力」を確かなものにすることを目指して、学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の構造を明確にし、創造的に展開することが必要である。そのため、普通教科「家庭」においては、生徒に身に付けさせたい資質や能力を明確にした上で、創意工夫ある教育課程を編成・実施するとともに、その成果の検証と改善に取り組むことが重要である。

また、普通教科「家庭」の課題として、生活に必要な知識と技術を定着させるための指導の工夫、社会の変化に対応し、生活課題を主体的に解決する能力を高める指導の工夫、の2点が指摘されていることから、については、生徒の主体的な活動を重視した実践的・体験的な学習指導(実験・実習等)を取り入れた指導内容・方法を工夫すること、については、学校での学習が日常生活の中で生きて働く力となるため、生徒の興味・関心を喚起し、課題解決能力やコミュニケーション能力を育成するための適切な題材を工夫することなど、指導方法や評価方法の改善が必要である。

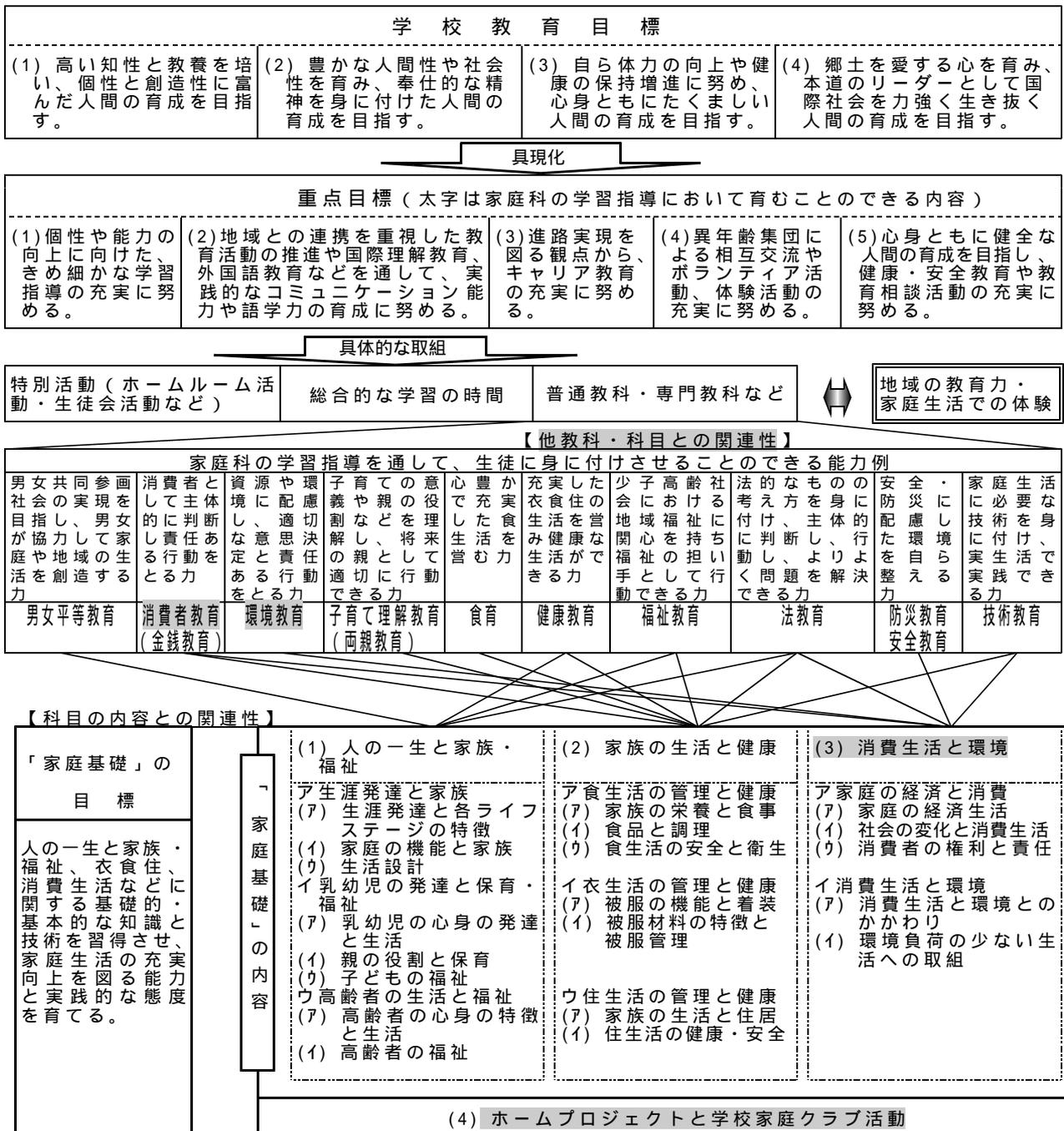
こうしたことを踏まえ、本手引では、家庭科が学校の教育活動全体でどのような能力の育成に関わっているのかを明確にするための模式図を示すとともに、科目「家庭基礎」と「家庭総合」について、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を目指す評価計画や学習指導案の事例を示すこととした。

(3) 学校教育目標の実現につながる「家庭科」の学習内容

学校の教育目標や重点目標で示された人材育成の観点から、必履修科目「家庭基礎」の学習内容や家庭科で身に付けさせたい能力が、教育活動全体の中でどのように関わっているかを示したものが、次の表1である。

家庭科は家庭生活そのものに関連した学習内容を取り扱うため、分野也多岐に渡り、さらに、社会の変化に柔軟に対応しつつ、伝統文化の継承という側面にも寄与する教科である。そのため、模式図のように学校教育目標等と学習内容の関連性を確認しながら、生徒や地域の実態に合わせた題材の選定や、学習内容の精選化、焦点化を図ることが重要である。

表1 必履修科目「家庭基礎」(2単位)の模式図の例(A高等学校)



網掛け部分は、本手引に示す取組の例に関連する内容である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ 課題解決能力とコミュニケーション能力を育む学習指導の工夫～

(1) 科目「家庭基礎」における取組

生活課題を主体的に解決する能力の育成を目指すため、科目「家庭基礎」の授業においては、他教科・科目の学習内容との有機的な関連を図り実施することが必要である。特に、学習題材や実施時期を他教科と合わせるなど、具体的な連携を図ることが大切である。次の表2は、環境教育・消費者教育に関わる学習題材の例を各科目ごとに示すとともに、他の科目との関連を図った取組の例をまとめたものである。

また、生徒各自の生活の中から課題を見出し、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践するホームプロジェクトについても、他の科目の学習内容と有機的に組み合わせる必要がある。表3の学習指導案は、科目「家庭基礎」の学習内容(3)消費生活と環境についての学習を踏まえ、課題解決を目指すホームプロジェクトの取組の例である。

表2 他教科と連携し生活課題を主体的に解決する能力を育成する取組の例

科目	家庭基礎	政治・経済	保健	国語総合
環境教育・消費者教育に関わる内容	(3)消費生活と環境 イ 消費行動と環境	(3)現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸課題	(3)社会生活と健康 ア 環境と健康	A 話すこと・聞くこと ウ 課題を解決したり考えを深めるために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。
学習題材(例)	環境負荷の少ない生活の工夫	公害防止と環境保全	廃棄物の処理と健康	ディベート「日本はレジ袋税を導入するべきである。是か非か。」
各科目独自の学習活動(例)	個人や家庭の生活改善の実践活動としてホームプロジェクトに取り組む。	地域や企業、行政、国際的な取組を知り、自分の取るべき行動を考える。	廃棄物による環境汚染を理解し、ゴミ処理の課題を調査する。	課題に関する情報を収集、整理、考察の後、ディベートを行う。
他科目との関連を図った例	ホームプロジェクトの事前学習として、環境保全を目指す行政の取組を、政治経済で学習する。	家庭科と保健の担当教員のティームティーチングによる授業で、廃棄物の処理を学習する。	家庭科において、「レジ袋の現状」についてレポートにまとめ、国語総合のディベートを行う。	
生活課題を主体的に解決する能力の育成				

参考資料：「全国ディベート連盟Webページ <http://nade.jp/>」

表3 課題解決型学習につながるホームプロジェクトの取組の例

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単元名	(3)消費生活環境 イ 消費行動と環境	
本時主題	「我が家のもったいないプロジェクト」の実践計画を立てよう。			
学習目標	ホームプロジェクトの進め方を確認し、主題に沿って我が家の課題を意欲的に見出し、解決に向けて思考を深め、実践計画を立てることができる。			
過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	・本時の目標の確認 ・ホームプロジェクトの進め方について説明	・本時の学習目標を確認する。 ・全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会のホームプロジェクト発表の部をビデオ視聴する。 ・ふるしきのいろいろな包み方を見る。		【関心・意欲・態度】 自分の家庭生活の中から課題を見出しそうと意欲を持って取り組もうとしている。 評価方法 生徒観察
展開	・「我が家のもったいないプロジェクト」の趣旨について、ふるしきとワンガリ・マータイ氏の活動も紹介しながら説明	・各家庭のもったいないと感じる生活行為を探し、ホームプロジェクトの題目選択、題目選択の理由、実施計画を計画シートにまとめ、提出する。	・各自に適切なアドバイスを与え、見通しをもった学習をさせる。	【思考・判断】 課題解決に向けて思考を深め、具体的で実施可能な計画を立案する。 評価方法 計画シート、面談
まとめ	・計画シート提出について説明	・計画シートの改善を夏季休業前までに済ませる。		

小池環境大臣デザイン「もったいないふるしき」の紹介

参考資料：『豊かな地球環境を次世代に引き継ぐためのエコライフ・ハンドブック2006』（内閣府国民生活局）

(2) 科目「家庭総合」における取組

単元(1)「人の一生と家族・家庭」、イ「家族・家庭と社会」、(イ)「家庭の機能と家族関係」の学習において、題材名「社会を映す家族関係～DV(ドメスティックバイオレンス)について～」を設定し、ケーススタディを用いた学習の評価計画を表4に示す。問題解決場面や意思決定場面が設定されたケーススタディによる学習は、思考力・判断力の育成に効果的であり、特に、学習する生徒自身が被害者(加害者)である可能性も想定できるDVや児童虐待等を題材とする場合においては、内省的・批判的思考力を育成する方法として有効である。

表4 評価計画の例

科目名		家庭総合(1学年2学年 各2単位 計4単位)			
単元名		人の一生と家族・家庭			
単元の目標		人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させるとともに、各自の生活設計を考える。			
評価の観点		【関心・意欲・態度】	【思考・判断】	【技能・表現】	【知識・理解】
内容のまとめりごとの評価規準		家族や家庭生活の営みを人の一生とのかかわりの中にとらえ、家族・家庭と社会、生活設計などに関心を持ち、男女の平等と相互の協力の観点から意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から、青年期の課題を踏まえて家族・家庭の在り方、各自の将来の生活構想などについて課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	事例研究や発表などを通して、家族・家庭の在り方や生活設計などについて検討するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解し、現在および将来の生活の在り方を考えるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価規準の具体例	ア 人の一生と発達課題	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)
	イ 家族・家庭と社会	・現代の家族の特徴、家庭の機能と家族関係、職業労働と家事労働、家族・家庭と法律などに関心を持ち、社会制度としての家族や福祉の在り方、ボランティア活動について考えようとしている。	・各自が担う家庭での役割、親子関係や夫婦関係などの家族関係の在り方について、具体的な事例や演習を通して考えを深めている。 ・家族に関する法律をもとに、社会制度としての家族について考えている。	・現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などについて、具体的な事例を調査研究したり、発表したりすることができる。 ・固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について意見交換ができる。	・現代の家族の特徴及び家庭の機能について理解している。 ・職業労働や家事労働の意義や特徴、現状と課題について理解している。 ・家族に関する法律や社会保障制度の趣旨と概要、社会福祉や地域社会の役割などについて理解している。
	ウ 生活設計	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)
	(フ) 現代の家族の特徴	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)
イ (イ) 家庭の機能と家族関係	1時間目 「社会の変化と家族」	目標 家族の意義を考え、いろいろな家族、暮らしがあることに気付く。 日本の家族の生活の移り変わりを、家庭の機能を家族関係や社会とのかかわりの中で理解する。	自分の家族観を知り、家族の課題解決策を考える意欲を持つ。	社会制度としての家族について考えている。 (評価基準の設定なし)	さまざまな家族の姿と家庭の機能について理解する。
	2・3時間目 「社会を映す家族問題～DVについて～」	目標 DVの具体的な事例をもとに家族関係について意見交換をするなど、ケーススタディに取り組むことによって、DVの問題がなぜ起こるのかを考えることができる。 固定的な性別役割分業意識の見直しの必要性に気付き、男女が相互に協力するパートナーシップの在り方について考えを深めることができる。	現代の家族問題に関心を持って新聞等を調べ、他人のスピーチを真剣に聞いて話し合いに積極的に参加している。	レポートやチェックシート・ワークシートの記入を通して家族関係の在り方について考えを深めている。	家族問題の事例について、自分の意見をまとめ、スピーチしたり、班での意見交換をしたりすることができる。 ・DV防止法成立の背景について理解している。
	評価方法	・課題レポート ・話し合い等の観察	・ケーススタディシートの記入内容	・課題レポート ・2分間スピーチ	(考査)
	4時間目 「男女共同参画社会の実現」	目標 少子高齢社会にあって男女のパートナーシップが重要なことを理解し、今の自分と向き合う。	自分が向き合い、パートナーと築く関係を考えようとしている。	各自が担う家庭での役割、親子関係や夫婦関係について考えを深めている。 (評価基準の設定なし)	・固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力の必要性を理解する。
(オ) 家庭生活と福祉	一生の生活にかかわる様々な法律を知り、その必要性を理解する。 重視する評価の観点				

また、生徒の思考力を高め、課題解決能力の育成を図るためには、ケーススタディの学習方法に加えて、生徒同士が互いの考え方や経験を知るためのコミュニケーションの機会が必要であることから、班内での話し合いやスピーチを学習指導に取り入れるなどの工夫が考えられる。さらに、学習活動を作業に終わらせることなく、生徒の主体的な学びにつなげるため、教師の「説明」や「指示」はもとより、生徒の思考を促す「発問」に留意した学習指導案と、配布プリントの具体例を表5、表6に示した。

表5 題材名「社会を映す家族問題～DVについて～」の学習指導案の例

教科(科目)	家庭(家庭総合)	単元名	(1)人の一生と家族・家庭	中項目	イ 家族・家庭と社会
学習内容	(1) 家庭の機能と家族関係 (2・3時間目(2時間授業)/4時間)				
学習目標	DVの具体的な事例をもとに家族関係について意見交換をするなど、ケーススタディに取り組むことによって、DVの問題がなぜ起こるのかを考えることができる。また、固定的な性別役割分業意識の見直しの必要性に気づき、男女が相互に協力するパートナーシップの在り方について考えを深めることができる。				
評価規準	【関心・意欲・態度】 ・現代家族を取り巻く状況について関心を持って調べることができる。 ・班員のスピーチに対し興味をもって聞き、話し合いに積極的に参加することができる。 【思考・判断】 ・話し合い・ワークシートへの記入等に取り組むなかで、家族関係の在り方について考えを深めることができる。 【技能・表現】 ・家族問題の事例について、自分の意見をまとめて発表したり、班での意見交換をしたりすることができる。 【知識・理解】 ・DV防止法成立の背景について理解している。				
評価方法	レポート・観察・ワークシート				

過程	指導内容(教師) 「指示」「説明」「発問」	学習活動(生徒) (網掛部分を次ページに掲載)	指導上の留意点
導入	今日の授業では何を予定していたか。	・課題レポート「現代家族の問題を探ろう」を準備し、本日の予定を確認する。	・レポート作成にあたって、PCルームの放課後開放や古新聞の提供など支援体制を整える。
展開	(班を編成) 自分のレポートをどのようにまとめて話すと班のみんなにわかるスピーチになるか考えて話しましょう。 スピーチ後、ワークシート1をまとめましょう。 他の人のスピーチを聞く時、どんな態度を取ったらよいか考えてみましょう。 他の人のスピーチで印象に残ったことは何でしたか。班内で意見交換をしましょう。 将来、自分がつくる家庭ではどのような家族関係が理想ですか。(指名する) チェックシートに取り組みましょう。 チェックシートを解説する。 DVとは、どんなことだと思いますか。 ケーススタディを読みなさい。 ケーススタディのA子さんやB夫さんの事例は、あなたの身近に起こることかも知れませぬ。自分の問題として受け止めてください。 Aさんの心に寄り添いながら、適切なアドバイスをしあけるには、どんな言葉がよいですか。 記入したらそのアドバイスを班内で発表してください。 他の人のアドバイスを聞き、自分の考えたアドバイスとの違いがありましたか。それはどのようなことでしたか。 ワークシート2(1)をまとめましょう。 これからワークシート2(2)の話し合いに入ります。友達の見をよく聞き、よく考えて、自分の意見をまとめ、わかりやすく話してください。 各班の代表者は班で意見交換した内容をクラス全体に話して下さい。 ワークシート2(2)をまとめ、提出しましょう。 (資料配付)	・レポートをもとにわかりやすく話すことに留意して1分間スピーチを行う。 ・スピーチ後、ワークシート1をまとめる。 ・メモを取ることに気付く。 ・どんな感想を持ったか班内で自分の意見を話す。 ・理想の家族関係について考える。(指名されたら答える。) ・チェックシートに取り組む。 ・チェックシートの説明を理解する。 ・DVの説明をする。 ・ケーススタディを読む。 ・ケーススタディシートに取り組み、アドバイスを考える。 ・各自考えたアドバイスを発表する。 ・発表する。 ・ワークシート2(1)をまとめる。 ・ワークシート2(2)の話し合いをする。 ・各班の意見交換の様子を全体に発表する。 ・ワークシート2(2)を各自まとめて、提出する。 ・DV防止法について理解する。	・レポート作成にあたって、PCルームの放課後開放や古新聞の提供など支援体制を整える。 <Cの評価の生徒への手だて> ・レポートをやっていない生徒には、個人指導(面談)を実施し、生徒の意見を聞きながらその場でまとめさせる。 ・班ごとに巡回し、話し合いや発表のアドバイスを行う。 ・チェックシートの回収を行い、生徒の認識を把握する。 ・A子さんへのアドバイスが難しいと感じる男子生徒には、B夫さんへのアドバイスを考えるよう指示する。 ・ワークシートを回収して途中までの評価を行い、生徒の状況を把握する。 C評価の生徒への手だて ・話し合いに参加できない生徒には各班の意見交換の様子を発表させる。 資料：男女平等教育ガイドブック『自分らしくあなたらしく』(北海道環境生活部発行)を活用する。
2時間目			
3時間目			
まとめ	現代社会の大きな問題であるDV問題をなくすためにはどうしたらよいか、解決方法をいくつか話してください。(指名する。) 次時の予告	・固定的な性別役割分業意識の見直しが必要ことに気付く。 ・男女共同参観社会の実現に関する学習を次の時間に行うことを知る。	

指導上の留意事項
授業においては、生徒の意見を引き出すことを主なねらいとし、生徒同士の意見を尊重しあうこと、多様な意見を受容すること、自ら思考力を深めていくことを重視して指導する。

表 6 学習活動において生徒へ配布するプリントの例

チェックシート

1年__組__番 氏名_____

1 あなたが、次の言葉の後に「暴力」という言葉を付けて具体的な事例をイメージした時、それを暴力だと思いますか？暴力だと思うものに をつけてください。

身体的	精神的	性的	社会的	経済的	対物
-----	-----	----	-----	-----	----

2 全国で配偶者等から暴力を受けたことがあると答えた人は、平成14年度にどのくらいいたと思いますか。数字に をつけてください。

女性	3.6%	9.3%	19.1%
男性	3.6%	9.3%	19.1%

1 ははすべて暴力である。対物暴力は、器物破壊によって相手に恐怖心を与え脅かしたり、大事なものを棄てて精神的打撃を与えるものである。

2 のデータは、平成14年度に内閣府男女共同参画局が実施した結果より引用した。配偶者等から暴力を受けたことがあると答えた人は、女性19.1%、男性9.3%である。3.6%は、身体的暴行を受けたことがある女性の割合である。

ケーススタディシート

1年__組__番 氏名_____

A子から次の相談を受けました。あなたは、どのようなアドバイスをしてあげますか？

この前、つきあってるB夫との関係で、ショックなことがあったの。日曜日、B夫の家に遊びに行ったら家族の方が誰もいなくて、2人きりだったの。そしたら、B夫が急に、強引に押し倒してきて、「やめて！」って言って押しのけようとしたら、壁に手をひどくぶつけちゃったんだ。「痛い！」って叫んだら、B夫の力がちょっとゆるんだから、その時に家を出て逃げてきたんだけど・・・このまま、B夫に嫌われてしまったらどうしよう。

あなたのアドバイス

班内でそれぞれのアドバイスを発表し、ワークシートの2にまとめます。

10代の若者にとって、DVは、デート時のレイプの形態をとまなうこともあり、被害者・加害者ともにその後の人生におけるパートナーシップの選択に悪影響を及ぼすと考えられている。

A子の相談に対するアドバイスを考えることで、客観的に問題を捉えることができる。生徒には、まずこの事例がまさに暴力であることを認識させ、男女の意識の違いについて気付かせることがねらいである。

ワークシート ~ 社会を映す家族問題 ~

1年__組__番 氏名_____

1 現代家族の問題点を探ろう。

(1) 班でどんな事例が出てきましたか。【関心・意欲・態度】

(2) スピーチで印象に残っている話題をあげ、なぜ印象に残ったのかまとめましょう。誰のスピーチですか。【思考・判断】

名前_____ 題材は_____

(3) 自分のスピーチを自分で評価しましょう。【技能・表現】

評価項目	評価			
要点を絞って話すことができたか。	A	B	C	D
内容をよく理解してもらえたか。	A	B	C	D
はっきりと大きな声でスピーチができたか。	A	B	C	D

A：たいへんよくできた B：よくできた C：できた D：あまりできなかった

2 ケーススタディのまとめ（A子さんへのアドバイス）

(1) 班の人のアドバイスの内容とそれに対する自分の意見をまとめましょう。【思考・判断】

氏名	発言者の内容	発言に対する意見

(2) 今後、A子さんとB夫君は、どんな話し合いをすればいいでしょうか。班で意見交換をし、自分の考えをまとめてみましょう。【思考・判断】

このワークシートは2時間にわたり使用する。各設問の評価の観点は、次のとおり【思考・判断】に重点を置いている。

1 (1) 関心・意欲・態度
(2) 思考・判断
(3) 技能・表現
2 (1) 思考・判断
(2) 思考・判断

ワークシートの各設問をA B C Dで評価し、さらに話し合いの状況や意見発表の様子など、観察による評価も行う。

また、1時間目終了時に、ワークシートを回収し、中間で評価を行うことにより、生徒の後半の取組への意欲付けに生かすとともに教師自身が授業を見直すきっかけとする。

2 (2)でおおむね満足できると判断できる状況(B)の記述例
「A子さんは、勇気を出してB夫君と、二人がこれからどんなつきあい方をしていきたいのか話しあうべきだと思う。」

2 (2)で十分満足できると判断できる状況(A)の記述例
「まず、お互いの気持ちをきちんと話しあうことが大切だと思う。その上でA子さんはB夫君に、自分だけの気持ちで行動して欲しくないことをはっきり言った方がいい。二人が対等な関係でないとききあっても楽しくない私と思う。」

2 (2)で努力を要すると判断できる状況(C)の記述例
「A子はB夫に、好きだけど乱暴はしないでって言えばいい。」

